



9月4日 ご夫婦そろって米寿を迎えられた、長井廣長さん・美佐子さん（新庄一丁目）のお祝いにうかがいました

ごあいさつ

令和元年9月6日

朝晩になると空気もやわらぎ、秋の気配を感じる季節となりました。

今年の夏も暑かった、という記憶とともに夏の甲子園で活躍した石川代表の星稜高校の活躍に、胸を熱くした方も多いと思います。智弁和歌山との延長タイブレークを制した試合や、履正社との決勝戦は球史に残る名試合となりました。本市からは布水中学校出身の鈴木快明君もベンチ入りし、チャンスに代打で起用されるなど活躍がありました。

また、大阪市で開催された全国中学校体育大会第46回全日本中学校陸上競技選手権大会で男子100メートルに出場した布水中学校3年生の新藤千馬君が優勝し、日本一の栄冠に輝きました。

野々市の若い皆さんが全国の舞台上で活躍される姿は、本市にとっても大きな誇りであり、これからのさらなる飛躍を大いに期待しております。

9月1日に文化会館で石川県ろうあ者福祉大会が開催されました。昨年、市でも手話言語コミュニケーション条例が制定され、ご来場いただいた関係の皆さんには、ご満足をいただける大会であったと思っています。

式典のときは、私どものあいさつに手話が入り、会場のスクリーンに字幕が出ていたのですが、二部のアトラクションの冒頭で、字幕の表示に不具合が生じました。会場の皆さんは手話を見ながら、コミュニケーションが図られているのですが、私は全く手話ができませんので、字幕が出ないと何もわからない状況です。そのとき支援が必要なのはまさに私自身でした。

行政側が、支援が必要な方に対して支援をさせていただいても、実際の支援とはどういうことなのか、支援が必要な方はどのように思われているか、口では「皆さんの立場に立って」と言いながらも、支援をしているつもりになってはいないかと、反省も含め、改めて感じさせていただいた次第です。

野々市は大学があることや子育て世代が多いことで、若いまちとの印象があります。物理的な年齢で若いというより、住んでいる地域に興味や関心を持たれ社会参加される、あるいは、そのようなことがしやすい環境にすることや、柔軟な感覚を育むことも大切であると思います。

住み慣れた地域で、いつまでもお元気で人生の主役でいられるようなまちづくり、簡単に一言では言い尽くせませんが、どの世代にとっても住みやすいまちでありたいと思います。

9月16日は本市の敬老会です。人生経験豊富でお元気な皆さんに、お会いできることを楽しみにしております。